

「〈パーマー〉 消化器病学のポイント」

訳 丹羽 寛文 金子 栄藏

慈恵医大教授 亀 田 治 男

書物には、それなりの目的と特徴とが明らかにされていること、そして読む人にとって、他書とは違った収穫のあることが必要である。本書はこのような特質を備えた良書の1つであるといえる。

この書は、Palmer 教授が元来 New Jersey 大学の学生・卒業生の消化器病学（胃腸管・肝・胆道・脾）教育のテキストとしてまとめたもので、記載は簡にして要を得ており、内容は理解しやすく覚えやすい。

とくに、教授自身の豊富な臨床経験に基づいて、解剖学的事項と臨床像との関連をよく解説し、器質的障害とともに、消化管疾患の機能異常をとくに重視している。また、重要な検査法や治療法の実技についても

具体的に説明するとともに、診療上注目すべき症状や病名、症候群などが多く収録され、且つ要領よく解説してある。したがって一読して念頭におく価値がある。とくに、わが国では一般にあまり注意が払われていない事項も多く、これらは診療上よい参考になると思われる。

このような特徴をもつ書であるだけに、読む場合にはつぎのような点に留意する必要もある。本書にかなり詳しく記載されている疾患や症候群で、わが国ではあまり経験しないものも少なくない。また病態や症状の説明にも、重点のおき方に多少の相違がある。ことにわが国と米国の疾患や所見の頻度の差、検査や治療の実際についての彼我の相違を理解

しながら読む必要があろう。このような立場に立って本書を読むならば、多くの新しい知識が得られ、啓蒙される所が多い筈である。

このような意味から、本書は従来のが国の消化器病学に関する書物とは大分感触が異なるばかりでなく、欧米の他の消化器病学書にもない特徴を備えている。

このたび、消化器病学界における気鋭の東大第1内科丹羽博士と浜松医大の金子博士とによって、邦訳書が出版された。この訳書はきわめて読み易く、外国医書の翻訳書を読んでいるという感じをうけない。したがって、気を楽にして読むことのできる手頃な書としてまとめられたといえることができる。

このように本書はきわめて興味ある特徴をもった、しかも簡明な消化器病学書であり、消化器病学を学ぶ人々に広くおすすめしたい。

A 5 / 頁246 / 図9 / 1977 / ¥2,800 / 160
＜医学書院刊＞